

令和 2 年 6 月 21 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03449

研究課題名(和文) 著作物の類似性に関する総合的・比較法的研究

研究課題名(英文) Comparative Study on Similarity of Copyrighted Works

研究代表者

上野 達弘 (Ueno, Tatsuhiro)

早稲田大学・法学大学院(法務研究科・法務教育研究センター)・教授

研究者番号：80338574

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：著作権法における最大の課題である「著作物の類似性」判断について国際的・総合的な比較を行うという研究目的の下、研究代表者(上野)は、わが国における膨大な事例の網羅的な分析を行ったのはもちろんのこと、約1年間のミュンヘン大学滞在を含めた4年間に、多くの国を訪問し、そこにおける多数の裁判例や事例に収集できたほか、この過程で多数の研究者と交流を深めて、問題意識を共有することができた。その成果は、この研究テーマだけに焦点を当てた単独の書籍にまとめて近々出版予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代社会においては、人が発表する作品について、他人の作品と類似するとして、いわゆるパクリではないのかと問題になることが多い。インターネット社会においては特に深刻であり、少し似ているだけで炎上して社会から消えてしまったものも多い。しかし、著作物の類似性判断というのは常にはっきりせず、研究者の間でも極めて難しい問題とされている。そこで、過去の膨大な裁判例を分析すると共に、諸外国の事例や議論を調査する本研究の成果が公表されれば、社会一般の人に対してこの問題に対する適切な理解をもたらすことができると共に、学問的にも重要な意味をもたらすものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：I conducted a comparative and comprehensive study on the similarity of copyrighted works, which is one of the most essential problems in the field of copyright law. During my four-years research period including my stay at the University of Munich, I could learn a lot about case law and discussions in many jurisdictions and deepen the academic relationships with many experts in the world. I have already a plan to publish a book solely for this topic, which will be published in the near future.

研究分野：知的財産法

キーワード：著作物 著作権 類似性 侵害 パクリ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究開始当時、類似性に関しては、従来の議論が十分でなかった。具体的には、類似性の意味については一定の議論があるものの、類似性が争点となった裁判例は極めて多数に上るにもかかわらず、その網羅的な分析は行われていなかったこと、類似性の判断方法については早くから紹介があったにもかかわらず、これに関する議論は深まっていないばかりか、この点に着目した裁判例の分析も行われていなかったこと、類似性判断における考慮要素については、いまだ問題提起された段階に過ぎず、実質的議論がなかったこと、諸外国においても類似性は重要な課題であるにもかかわらず、比較法的検討が十分に行われておらず、諸外国における裁判例の分析も未着手のままであったことである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、類似性というものの意味について、類似性というものが果たすべき役割という観点から、類似性をどのような意味に理解すべきかを、その正当化根拠と共に明らかにすること、類似性判断の方法について、それが有する機能という観点から、類似性についてどのような判断方法を採用すべきかを、その正当化根拠と共に明らかにすること、類似性判断において考慮すべき要素について、著作物の著名性や第三者の混同といった、これまでは類似性とは無関係とされてきた事情を含めて、類似性判断においてどのような要素が考慮されるべきであり、どのような要素が考慮されるべきでないかを、その正当化根拠と共に明らかにすることにある。

3. 研究の方法

本研究は、著作物の類似性に関して、わが国はもちろん英米独仏を中心とする諸外国における議論および裁判例を網羅的に分析した上で、これらを横断的に比較法研究するものであった。具体的には、わが国における明治以降の裁判例を収集して、類似性に関する考え方や判断方法、その変遷を分析するほか、英米独仏を中心とする諸外国に関しては、対象国に出張して、資料収集とインタビューを行い、これに横断的な検討を加える点にある。

4. 研究成果

(1) わが国における類似性の意味と判断基準

第一に、わが国における類似性判断については、過去の膨大な事例を網羅的に分析してみたところ、ジャンルや分野による傾向、判断が下される時期や社会的状況による傾向、判断する裁判所の地域による傾向など、様々な検討視角を得ることができた。特に、については、古い裁判例は、類似性を緩やかに肯定する傾向があるのに対して、最近の裁判例は、類似性を厳格に肯定する傾向が見られた。また、については、大阪地方裁判所が類似性を緩やかに肯定する傾向があるのに対して、東京地方裁判所は類似性を厳格に肯定する傾向が見られた。

こうした研究成果については、網羅的な事例紹介に加えて、実務家でもある研究者と共同で分析を加えた書籍として発表する予定であり、すでに特定の出版社から出版企画の承認を得ている。

(2) 諸外国における類似性の意味と判断基準

第二に、ヨーロッパ諸国(特に、ドイツ、イギリス、フランス、オランダ、ポーランド、スイスなど)やアメリカにおける類似性判断について、可能な限り、過去の膨大な事例を分析してみたところ、特に最近の日本(特に東京地方裁判所)における裁判例と比較して、類似性がかなり緩やかに肯定する傾向があるのではないかと感じられたこと、特にドイツにおいては、自由利用規定(ドイツ著作権法24条)が存在することもあり、パロディなど著作権侵害が否定されるべきと考えられる様々な事案において、事実上類似性が否定される場合があること、他方で、2019年7月29日の欧州司法裁判所の判決により、加盟国の著作権法の「フル・ハーモナイゼーション」を可能な限り実現するために、ドイツ著作権法24条のような自由利用の規定はもはや維持できないのではないかという議論になっており、ドイツ国内においても、また、他のヨーロッパ諸国においても、今後さらなる議論の展開が予想されること、などの知見を得ることができた。

こうした研究成果については、国際的な学会において発表すると共に、世界中の研究者に対して執筆依頼をして、それぞれの国における類似性判断に関する一般論を解説してもらうと共に、世界共通の事例を与えて、それぞれの国においてどのように判断されるかという点を論じてもらう書籍を英文で出版することによって、わが国のみならず世界の研究成果として発表したいと考えている。

(3) 類似性判断における考慮要素

第三に、類似性判断における考慮要素を、わが国および諸外国における過去の膨大な事例やこれをめぐる議論を分析してみると、最大の問題は、著作物の著名性や第三者の混同といった点を考慮するかどうか、考慮するとして、それをどのように正当化するかという点が最大の焦点となった。それらの要素は、不正競争防止法の世界では考慮されるとしても、従来の著作権法学にお

いては、そうした要素は、著作物の類似性とは無関係であり、むしろそうした要素が著作物の類似性判断に関係してはならないと解されてきたところであるが、近時の研究によれば、そのような理解に対する再考を迫るようなものも見られると共に、また、より一般人の感覚に照らすならば、著名な著作物がより緩やかに類似性が肯定されることや、また、第三者が混同するような場合はより緩やかに類似性が肯定されることは、むしろ妥当な解釈と受け止められると考えられる。そうだとすると、従来の議論からすれば些カラディカルではあるが、著作物の類似性判断をめぐる著作権法上の議論も、こうしたことを無視すべきではなく、これに対して適切な位置づけを与えていく必要があるのではないかという知見を得るに至った。

この研究成果については、上記(1)において触れた書籍においてあわせて分析を発表する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 72巻4号
2. 論文標題 著名商標のパロディ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 パテント	6. 最初と最後の頁 67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 -
2. 論文標題 表現の選択の幅〔ライブドア裁判傍聴記事件〕	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小泉直樹・田村善之・駒田泰士・上野達弘編『著作権判例百選』（有斐閣、第6版）	6. 最初と最後の頁 8～9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 28
2. 論文標題 知的財産法と労働法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 論究ジュリスト	6. 最初と最後の頁 36～42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 26
2. 論文標題 実演と隣接権制度	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 論究ジュリスト	6. 最初と最後の頁 12～19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 44
2. 論文標題 インターネット放送をめぐる著作権法上の課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 著作権研究	6. 最初と最後の頁 43~61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 686
2. 論文標題 著作権法に関する最高裁判決の射程 最高裁判決のミスリード?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 コピライト	6. 最初と最後の頁 2~35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 449号
2. 論文標題 舞台芸術と知的財産法	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法学教室	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 70巻11号(別冊17号)
2. 論文標題 音の商標の識別性と類似性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 パテント	6. 最初と最後の頁 109-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 -
2. 論文標題 人工知能による“発明”と“創作”	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Japio YEAR BOOK 2017 (日本特許情報機構)	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 77号
2. 論文標題 ライブハウスにおける演奏主体	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 L & T	6. 最初と最後の頁 23-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 1510号
2. 論文標題 著作物の利用行為主体をめぐる議論と課題 音楽教室、ライブハウス、投稿サイト	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ジュリスト	6. 最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 -
2. 論文標題 人工知能と機械学習をめぐる著作権法上の課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『知的財産紛争の最前線(3)』L & T別冊(民事法研究会)	6. 最初と最後の頁 56-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 -
2. 論文標題 権利制限の一般規定 受け皿規定の意義と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中山信弘・金子敏哉編 『しなやかな著作権制度に向けて コンテンツと著作権法の役割 』（信山社）	6. 最初と最後の頁 141～182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 -
2. 論文標題 著作権侵害訴訟における依拠性に係る要件事実	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 伊藤滋夫編 『知的財産法の要件事実』（日本評論社）	6. 最初と最後の頁 131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 -
2. 論文標題 著作権法の柔軟性と明確性	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 中山信弘編集代表 『知的財産・コンピュータと法』（商事法務）	6. 最初と最後の頁 25-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 69巻4号
2. 論文標題 「キャラクターの法的保護」 パテント69巻4号（別冊	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 パテント	6. 最初と最後の頁 47-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 2015年号
2. 論文標題 著作物の類似性 従来の議論と課題	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国際著作権法研究	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 -
2. 論文標題 有体物と無体物 顔真卿自書建中告身帖事件	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 小泉直樹・田村善之・駒田泰士・上野達弘編『著作権判例百選』（有斐閣、第5版）	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 70巻2号
2. 論文標題 自動集積される大量データの法的保護	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 パテント	6. 最初と最後の頁 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野達弘	4. 巻 -
2. 論文標題 時事の事件の報道 著作権法41条をめぐる現代的課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 外川英明・高松孝行・加藤暁子・藤田晶子編『知的財産法のモルゲンロート』（中央経済社）	6. 最初と最後の頁 587
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件（うち招待講演 17件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 Tatsuhiko Ueno
2. 発表標題 Recent Amendment of Japanese Copyright Act
3. 学会等名 Korea-Japan Copyright Forum in Seoul (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tatsuhiko Ueno
2. 発表標題 Mediation and Arbitration in Copyright Disputes
3. 学会等名 ALAI (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 ブロッキングとリーチサイトをめぐる議論状況
3. 学会等名 法とコンピュータ学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 知的財産保護の多層化と自由の確保
3. 学会等名 国際経済法学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 ネット放送をめぐる総論的考察
3. 学会等名 著作権法学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 著作権訴訟における立証をめぐる諸問題
3. 学会等名 金沢弁護士会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 著作権法の明確性と柔軟性
3. 学会等名 著作権シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tatsuhiko Ueno
2. 発表標題 Copyright Issues on Artificial Intelligence and Machine Learning
3. 学会等名 IJCAI-17（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tatsuhiko Ueno
2. 発表標題 Liability of internet intermediaries in Japan
3. 学会等名 The 7th Global Forum on Internet Governance (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 オープンソースソフトウェア (OSS) と著作権
3. 学会等名 WIPO Conference
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tatsuhiko Ueno
2. 発表標題 The Role of Copyright Law
3. 学会等名 WIPO Asia-Pacific Regional Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tatsuhiko Ueno
2. 発表標題 ADR System and Trends in Copyright Disputes in Japan
3. 学会等名 WIPO-KCC Copyright Mediation Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 A I / 応用美術と著作権法
3. 学会等名 弁理士同友会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 応用美術等と著作物法
3. 学会等名 第二東京弁理士会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 著作権法学のあゆみ
3. 学会等名 北海道大学 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 著作権法上の“引用”を考える
3. 学会等名 JASRACシンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tatsuhiko Ueno
2. 発表標題 The Role and Challenge of the Copyright System in Japan
3. 学会等名 WIPO-文化庁著作権研修（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 著作権法に関する最高裁判決の射程 最高裁判決のミスリード？
3. 学会等名 CRIC月例著作権研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tatsuhiko UENO
2. 発表標題 A general clause on copyright limitations in civil law countries
3. 学会等名 COMPARATIVE DIMENSIONS OF LIMITATIONS & EXCEPTIONS IN COPYRIGHT LAW（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 引用規定の柔軟解釈とフェアユース
3. 学会等名 日韓知財シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tatsuhiko UENO
2. 発表標題 Cumulative Protection for Applied Arts and the Role of Copyright
3. 学会等名 ALAI Congress in Rome (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tatsuhiko UENO
2. 発表標題 Copyright Issues on Artificial Intelligence and its "creation"
3. 学会等名 Seoul Copyright Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 Live Bar事件
3. 学会等名 著作権法学会・判例研究会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野達弘
2. 発表標題 人工知能と著作権
3. 学会等名 情報処理学会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tatsuhiko UENO
2. 発表標題 Liability of intermediaries in Japanese Copyright Law
3. 学会等名 Conference "Online Platforms and Intermediaries in Copyright Law" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 高林龍・三村量一・上野達弘編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 248
3. 書名 年報知的財産法2018 - 2019	

1. 著者名 小泉直樹・田村善之・駒田泰士・上野達弘編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 232
3. 書名 著作権判例百選 (第6版)	

1. 著者名 高林龍・三村量一・上野達弘編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 256
3. 書名 年報知的財産法2017 - 2018	

1. 著者名 小泉直樹・田村善之・駒田泰士・上野達弘編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 246
3. 書名 著作権判例百選（第5版）	

1. 著者名 島並良・上野達弘・横山久芳	4. 発行年 2016年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 339
3. 書名 『著作権法入門』（第2版）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>研究業績 http://www.f.waseda.jp/uenot/list.html</p>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考